

デザインソフト PixC ~ピクシー~ を開発

ネットワーク情報学部・上平プロジェクト

大好影響



▲メンバーが制作したピクトグラム



▶ 試作を体験する外国人女性(2月21日、防災訓練で)

「非常口」や「禁煙」のように簡潔な記号で情報を伝えるピクトグラム(視覚記号)。そのピクトグラムを自在に作れる情報デザインソフト「PixC(ピクシー)」をネットワーク情報学部・上平崇仁プロジェクトの学生10人(小菅航平リー

ダー、いずれも4年次)が開発した。川崎市国際交流センター(中原区)の防災訓練(2月21日)で試作したところ反響は



ピクトグラムが視覚記号が自在に

大。成果は7月に開かれた日本デザイン学会で発表される。

外国人向けの案内表示の実情を探るため、メンバーは都内4カ所の宿泊施設(ゲストハウス)や横濱駅、東京ソラマチで調査。昨年12月には専大国際研修館に試作品を展示し、留学生に感想をアンケートする一方、同館の職員に実際にパソコン

で掲示物を作成してもらい操作性をテストした。同館で必要とされる掲示は「食器を洗って」「冷蔵庫に入れる物には名前を書いて」など生活の場ならではの内容。小菅さんは「ユーザー自身が作ると的を射たピクトグラムができる。注意事項を長々書くより印象も柔らかい」とPixCの可能性を再確認した。

多摩区内のベンチャー企業が開発したミクロ吸盤で吸着するシート(川崎ものづくりブランド製品)に印刷することで、テープなどが要らず使い勝手も向上した。上平教授が合格点をつける完成度で、学会発表に挑む。

開発に取り組んだメンバー(右端が上平教授) PixCは「ピクトグラム」×「クリエイティブ」の略。内蔵する約100種類の図柄から必要なものを選び、位置や向き、角度などを調整して完成させる。「手を洗おう」なら蛇口と水、手を二つ組み合わせる。下部に日本語や英語で短文を打ち込むこともでき、マウスの操作でイメージに近づけていく過程が楽しい。あとは印刷し、貼るだけだ。



▲ 2012年のベンチャービジネスコンテストでプレゼンする山賀さん

商学部・高橋義仁ゼミの山賀美裕さん(会計学科4年次)は、さまざまなビジネスプランコンテストに挑戦、他大学の学生と競い合うことで好成績を収めている。

同ゼミの山崎貴将さん、張辰珠さん(いずれもマーケティング学科4年次)と一緒に参加した今年1月開催の第10回賞、さらに第11回学生ビジネスプランコンテスト(学生サポートセンター主催)でアイデア賞とダブル受賞した。

簿記2級を取得している山賀さんは、もとは国税専門官志望だった。好奇心が旺盛で2年次のときに本学のベンチャービジネスコンテスト(キャリアデザインセンター主催)に出場し学生食堂の活用策を提案、優秀賞を獲得した。

「大きな自信になり、経営やベンチャーへと興味の対象が変わりました」と言う。

企業経営戦略分析とビジネスプランニングをテーマとする高橋ゼミに入り、実践的経営学を学んでいる。インターンシップやビジネスプランを学ぶ起業塾にも参加、交友関係も広がった。就職は大手通信会社に内定。「今後も自分の意見を表現する力を磨き、グループワークやコンテストに積極的に参加して視野を広げたい」と意欲満々だ。

ビジネスアイデアコンテストで次々受賞

2014年度(前期)の留学プログラム(前期)の留學生12人が決まった。氏名・留学先は次のとおり(敬称略)。

- オレゴン大学(米国) 荒川晴菜(経済2)
- ウーロンゴン大学(オーストラリア) 小野圭介(経済3)
- 品田真歩(文3)
- ウーロンゴン大学(オーストラリア) 柳田晴誉(文3)
- 齊藤朱臣(文3)
- 品田真歩(文3)
- ウーロンゴン大学(オーストラリア) 小野圭介(経済3)
- 新井麻由(経営2)
- 目良圭佑(文3)
- ワイカト大学(ニュージーランド) 古井雅貴(文3)
- 八田真緒(文3)



寺尾 格 外国語教育研究室長

「LL教室」は今年の4月から最新のWindows 8.1にバージョンアップすると共に、情報科学センターとも完全に統合して、各自のアカウントでの利用も可能となります。この機会にLL教室も、単なる「視聴覚機器利用」を

e-learningでの外国語学習を「CALL教室」で!

思わせる旧名称から、「CALL教室(Computer Assisted Language Learning)」へと正式に名称の変更を行いました。「LL(Language Laboratory)教室」の旧名称は、ひとりひとりがブースに籠もって機器と向き合う「閉じた個人作業」のニュアンスが強いです。むしろ自立した学習を「開かれたコミュニケーション」へと結びつけるような「コンピューター支援による外国語教室」をめざすという趣旨です。



▲ CALL教室のコンピュータ、映像機器も充実

紙と鉛筆だけで受け身に学ぶ外国語から、耳と口と手足をフル活用しながら、相手と全身で向き合う態度が「語る」「聴く」「考える」というアクティヴに外国語を学ぶ行為です。専修大学の学生であれば、三種類のe-learning 英語教材がインターネット環境で使い放題となります。自分の

実力に合ったレベルから始められます。大意のヒアリングや語彙や文法等々、様々な質問に答えながら同じ英文を読み返し、聞き返している中で、実践的な表現力が蓄積されていきます。自然に続けられるように工夫されていて、なかなか良く出来ています。内容をさらに充実させたいとも思っていますので、学生諸君の利用の感想などをお寄せ下さい。 ※短縮版。全文はCALL教室ホームページで。

▶ 大林守国際交流センター長(中央)を囲んで